

## 第5回「オール埼玉医大 研究の日」開催報告

村上 孝

(医学部 基礎医学部門 微生物学)

2024年11月9日(土)、第5回「オール埼玉医大 研究の日」(以下、「研究の日」)が毛呂山キャンパスのカタロスタワーで開催されました。今年の開催周知のポスターは本学のカラーに寄せたパステル調の青い絵柄ですが、当日もこのような清々しい天気恵まれました。また感染対策としてのマスク着用がエチケットとして定着し、この「研究の日」を対面で開催ができるようになりました。4年前の第1回目の開催を振り返ると、ようやく日常を取り戻すことができたと強く実感しています。

さて午前の第一部では、教職員・学生の一般研究発表会としてポスター発表が行われました。昨年からはじめたものですが、各キャンパスからデジタル発表を含めて58件もの演題が集まりました。3階と地下1階に設置していただいたピクチャーレールも目一杯の使用となり、不足分はホワイトボードでなんとか帳尻を合わせることができました。当日の朝は冷やりとしていましたが、発表が始まるとフロアはみるみるうちに熱気に包まれていきました。全国規模の学会で発表経験のある(研究医養成プログラム)学生も教職員に混って発表してくれました。

後半の第二部(午後)は1階クロード・ベルナルホールでの口演発表です。「Zoom」からのリモート参加ができるようにしたことは昨年と変わっていません。会全体を通

すと長丁場になるため、やはりリモート参加は休憩しながらの参加には一定の需要があるように思いました。今年も学部学生による研究発表から始まり、大学院修士・博士課程発表と続き、特別講演(2023年度丸木記念特別賞受賞者成果発表)、本学創立50周年記念特別研究費受賞者の進捗報告と盛り沢山の成果が披露されました。今年一番の特徴は、学部学生による研究発表の演題数が増えて、それらの内容もかなり充実していました。質疑応答も本質をついた真剣勝負の討論が交わされていました。課外学習プログラムからのまとまった成果発表もあり、この日の発表のために多くの準備や努力を重ねてきたことと思います。まさにクロード・ベルナルホールの檜舞台を飾るのに相応しい内容でした。

今年にはもう一つの目玉企画がありました。今までコロナ禍で開催が見送られてきた懇親会をはじめて開催することができました。会場となった7階コンシリウムホールには教職員と一緒に元気な学生が多く参加してくれたことで賑やかな会になりました。朝から長時間にわたる発表会でしたが、皆さんが充実した笑顔で終えられたことがとても印象的でした。来年も一層交流が深められるような「研究の日」を迎えたいと願っています。